

令和元年7月24日

VR・AR等を活用したサービス創出に向けた取組実態調査を実施します  
～生産性を飛躍的に高める可能性を秘めるVR・AR等のビジネス用途に  
特化した活用のポイントを取りまとめます～

近畿経済産業局は、「VR・AR等の先進的コンテンツを活用した取組実態及び知的財産権活用に関する調査」を実施します。

従業員教育や作業シミュレーションなど、VR・AR等のビジネス用途での活用は、人手不足等の課題に直面する企業の生産性を飛躍的に高めるものとして期待されています。

関西経済活性化の担い手となる中小・ベンチャー企業の生産性向上を図る観点から、VR・AR等を活用したサービスを創出・事業化するための課題や方策等について、活用事例の分析を踏まえて検討します。

本調査の成果として、ビジネス用途に特化したVR・AR等の活用を考える中小・ベンチャー企業向けの手引書・事例集を取りまとめ、公表します。

## 1. 概要

近年VRデバイスが普及し、観光やゲーム、エンタメ分野において広く活用されているVR・AR等<sup>(注)</sup>は、中小・ベンチャー企業の生産性向上に非常に役立つツールとして、従業員教育や作業シミュレーションなど、ビジネス用途での活用の関心が高まっています。

当局が昨年開催したVR・AR等活用事例を紹介するセミナーでの参加者アンケートによれば、VR・AR等に関心は高いものの、特にビジネス分野での活用イメージが湧かないという意見を多数得ました。

こうした関西の中小・ベンチャー企業の関心の高まりから、当局では、本年度、ビジネス分野でのVR・AR等活用の機運を一層高め、新たなサービス創出にチャレンジする企業を増やすことを目指して、「VR・AR等の先進的コンテンツを活用した取組実態及び知的財産権活用に関する調査」を実施します。

(注)本調査で取扱う「VR・AR等」は、「VR(Virtual Reality:仮想現実)」、「AR(Augmented Reality:拡張現実)」、「MR(Mixed Reality:複合現実)」、AI、ドローン等の先進技術を活用したコンテンツを言います。

## 2. 本調査の特徴

- 機械操作の安全教育や、医療現場での手術シミュレーションなど、ビジネス用途でのVR・AR等活用に絞った実態調査は全国でも例がない。
- VR・AR等を活用するユーザー側のメリット（業務効率化・付加価値向上の効果）を提示できる事例を収集する。

### 3. 本調査での具体的な取組

- VR・AR 等を活用したサービス創出に向けた「有識者検討委員会」を3回程度開催。
- VR・AR 等を活用したサービスを提供する関西の企業を中心に20社へのヒアリングの実施。
- 本調査の検討結果及びVR・AR等の活用事例を紹介するセミナーの開催（令和2年2月頃を予定）。
- ビジネス分野に特化したVR・AR等活用のポイントや関西企業の取組事例を紹介した「手引書・事例集」の作成。

### 4. 有識者検討委員会メンバー（7名）

#### 【委員長】

廣瀬 通孝氏（東京大学大学院 情報理工学系研究科 教授）

#### 【委員】（五十音順）

上羽 秀敏氏（インテリクス国際特許事務所 所長・弁理士）

久保田 瞬氏（株式会社 Mogura 代表取締役社長）

近藤 博史氏（特定非営利活動法人映像産業振興機構 事業開発部 部長代理）

前川 聡氏（株式会社パリティ・イノベーションズ 代表取締役）

森口 昌和氏（NEC ソリューションイノベータ株式会社 イノベーション戦略本部 マネージャー）

保田 充彦氏（一般社団法人ナレッジキャピタル リサーチャー）

#### 【事務局】

近畿経済産業局、一般財団法人関西情報センター

### 5. 第1回有識者検討委員会概要

日時：令和元年8月9日（金）16:00～18:00

場所：一般財団法人関西情報センター 会議室

（大阪府中央区城見1-3-7 松下IMPビル5階）

議題：趣旨説明、ビジネス分野におけるVR・AR等の普及啓発の手法 等

※当日は、冒頭（趣旨説明）まで取材可能

（本発表資料のお問い合わせ先）

近畿経済産業局 産業部 コンテンツ産業支援室長 八田

担当者：細見、吉田、中原

電話：06-6966-6053

FAX：06-6966-6084

## (参考) ビジネス用途での VR・AR 等を活用したサービス事例

### 【1】従業員の安全教育（製造業、建設業で活用）

- ・現実では危険なため体験できない作業のミスで発生する転落や感電等の事故を VR で体験することで、正しい作業手順を学び、安全に対する従業員の意識向上を図る。

### 【2】試作シミュレーション（製造業で活用）

- ・導入を検討している機械装置が実際に動いている状況を VR 上で確認することができ、顧客に分かりやすく説明するためのプレゼンテーションに使用する。開発段階での顧客への提案ツールとして VR を活用することで、開発時の事前の合意形成が容易になり、すり合わせのスピードアップとコスト削減の効果がある。

### 【3】医療現場での手術シミュレーション（医療分野で活用）

- ・MR 技術を活用し、手術前のシミュレーションとして、医師が仮想空間の CG 画像のガイドを見ながら、現実空間の患者の模型に施術を行うことができる。

### 【4】設備や家具の設置シミュレーション（製造業、建設業、不動産業で活用）

- ・MR 技術を活用し、工場の設備やオフィスの家具・什器などの 3D データを現実世界に表示することで、設置場所のレイアウトや動線、設置後の作業性などを検証することができる。